

## Research Bulletin of English Teaching

2024年7月6日改訂

### 投稿規程

1. 著者は、大学英語教育学会（以下「JACET」という。）北海道支部会員でなければならない。ただし、共著の場合、第一著者は投稿時に会員であること。第二著者以降の資格は問わない。
2. 投稿論文は、未発表でなければならない。ただし、口頭発表をした場合、その旨を明記すれば審査対象となる。
3. 投稿分野は、実験や調査あるいは理論的考察をまとめた「研究論文」と教育実践およびその考察をまとめた「教育論文」、および「研究論文」に準じ、速報性を有し、会員にとって有用な情報を含んだ「研究ノート」に分かれる。ただし、「研究論文」や「教育論文」として応募された論文でも、内容によっては応募者の了解を得たうえで「研究ノート」として掲載することもある。
4. 原稿は、Microsoft Word を使って以下の規格で作成すること。なお、投稿規定に合わない原稿や誤字脱字が多い原稿は原則、審査の対象としない。特に、注、文中引用、引用文献、図表は厳守すること。
  - A) 用紙サイズと余白  
A4 縦長サイズで、上下 30mm、左右 25mmの余白を設けること。
  - B) 文字サイズ  
日本語、英語とも横書きで、文字サイズは 12 ポイントで作成すること。
  - C) 文字フォント  
日本語の場合 37 字 30 行で文字フォントは MS 明朝、英語の場合 68 字 30 行で文字フォントは Times New Roman を使用すること。
  - D) 表紙および本文の書式  
最初のページに、12 ポイントで 3 行あけて論文タイトル（16 ポイント、ボールド）を書くこと。1 行あけて氏名と所属を書き（12 ポイント、所属は括弧書き、ボールドなし）、さらに 1 行あけて Abstract（12 ポイント、ボールド）と書き、次の行から 150 語程度の 1 パラグラフで英文 Abstract（本文の使用言語に関わらない、12 ポイント、インデントなし）を置くこと。論文タイトル、氏名と所属、Abstract の語句はセンタリングすること。その後 1 行あけて本文に入ること。本文の中では、章の間は行をあげ、節の間は行をあげないこと。章や節のタイトルには、番号をつけること（この部分は、APA スタイルと異なるので注意）。各パラグラフのインデントは、日本語の場合は全角 1 文字、英語の場合は半角 5 文字とすること。
  - E) ページ番号  
ページ番号は挿入しないこと。

## JACET 北海道支部

### F) 原稿の総ページ数

Abstract、本文、註、参考文献、図、表等の資料すべてを含めて、日本語および英語ともに 20 ページ±5 ページの長さとする。

### G) ネイティブチェック

英文原稿、英文 Abstract は、必ずネイティブチェックを受けたものを提出すること。

### H) 引用文献

本文中に言及されている文献のみを引用文献として掲げること。

### I) 注

注は脚注とせず、本文の最後、引用文献の前に置くこと。

### J) 図、表

図、表には一連の番号をつけ、本文の中に含めること。同一の図、表がページをまたがないように工夫すること。

### K) 論文の書式

論文の書式は American Psychological Association 発行の APA Publication Manual (7th Ed.) に準拠すること。引用文献の書式例を以下に掲げるが、英語論文、日本語論文の順とすること。どちらも第一著者アルファベット順で配列すること。

Bandura, A. J. (1977). *Social learning theory*. Prentice Hall.

Beebe, L. M. (1985). Input: Choosing the right stuff. In S. M. Gass, & C. G. Madden (Eds.), *Input in second language acquisition* (pp.404-414). Newbury House.

Ellis, R., Basturkmen, H., & Loewen, S. (2001). Preemptive focus on form in the ESL classroom. *TESOL Quarterly*, 35(3), 407-432. <https://doi.org/10.2307/3588029>

岡 秀夫 (1979). 「教育・学習にかかわる領域—外国語教授原理および論争点」. 垣田直巳(編). 『英語教育学研究ハンドブック』 (pp.271-300) . 大修館書店.

高梨芳郎 (1993). 「英語学習における学習動機、学習方略、英語力の関係」. 『福岡教育大学紀要』, 第 43 号, 45-61.

5. 原稿を以上の規格で作成し、「提出用ファイル」と「応募ファイル」を、下記の E メールアドレスに送信すること。ファイル提出の締め切りは 10 月末日とする。天使大学 目時光紀 研究室 Email address : metoki0702[at]gmail.com ([at]を@ (半角英数) に変えてご送信ください。

6. 原稿の採否は、査読結果に基づき本支部紀要編集委員会 (以下「RBET 編集委員会」という。) で決定

## JACET 北海道支部

し、第一著者に連絡する。

7. 採択の決定した論文については、査読者からの所見や修正意見およびRBET編集委員会からの指示をあわせて連絡する。第一著者は当該の所見や修正意見および指示に従い、Microsoft Wordで作成した最終原稿をメール添付で提出することとする。
8. RBET編集委員会の判断により、ハードコピーの提出を求めることがある。
9. 掲載論文は、翌年3月末にJ-STAGEおよび本支部ホームページを通じて公開する。
10. 著作権について

投稿者は、投稿論文が採用・掲載された場合、以下の事項を了承したものとみなす。

- (1) 本支部紀要（以下「RBET」という。）に掲載された論文等の著作権はJACETに帰属し、著者等が複製あるいは転載する場合は、JACET北海道支部の承認を受けることとする。
- (2) RBET掲載論文が著者所属の機関レポジトリ等を通じて公開が求められた場合は、発行後1年経ったものは原則これを認めることとする。尚、この場合は無料とする。
- (3) 機関レポジトリ等を通じて公開する論文はJACET北海道支部紀要掲載稿とする。
- (4) 著者等が、自身の論文等を公開する際には、本学会に事前に承認を得なければならない。尚、「本論文の著作権は一般社団法人大学英語教育学会に帰属する」ということを必ず明記する。

Research Bulletin of English Teaching 編集委員会